

小林貞一から21世紀への贈り物

矢島道子

日本大学文理学部

Gifts towards 21st Century from Teiichi Kobayashi

Michiko Yajima

College of Humanity and Science, Nihon University, Tokyo 156-8550

1925年の日本古生物学会創立以来、先人達は数多くのレガシーを21世紀の私たちに遺してくれた。その中で特に重要と思われるもの3つをあげてみたい。

1つ目は1960年創刊の本誌『化石』である。本学会の基盤がまだ脆弱だった50余年前、古生物学の将来の発展を見越して英文・和文の2誌を並行して走らせた小林貞一の英断に敬意を払い、「化石」100号の刊行を心から祝福したい。

2つ目はタイプ標本の保管の制度化である。1961年の国際動物命名規約第1版が契機となって日本国内の研究機関の標本整備が進み、学外からのタイプ標本の検証が容易になった。東京大学総合研究博物館の登録番号0001番はオルドビス紀の直角石 *Vaginoceras grabaui* Kobayashi, 1927である(図1, 2, 3)。現在、同館の登録化石標本は30,000点を超えているが、その最初の一歩となったのがこの標本である。なお、当該種は1927年発行と印刷された雑誌に掲載されたが、実際にはその雑誌は1928年に発行された。それで、登録台帳は1928年となっているが、

国際動物命名規約の章5条21にてらして1927年が現在は採用されている。

3つ目は『Geology and palaeontology of Southeast Asia』全25巻の刊行である(Kobayashi *et al.*, 1964-1984; 図4)。東大出版会から出版されたこの大著は、今後、日本がアジアにおける研究拠点として東南アジアの古生物学研究を進める際、その土台となる貴重な成果である。

小林貞一(1901~1996)からのすてきな贈り物に心から感謝したい。なお、本文作成には前田晴良氏・佐藤たまき氏にご協力いただいた。心より感謝する。

文献

- 遠藤隆次, 1965. 原人発掘. 古生物学者の満州25年. 182p., 春秋社.
Kobayashi, T., 1927. Ordovician fossils from Corea (Korea) and south Manchuria. *Japanese Journal of Geology and Geography*, 5(4), 173-212.



図1. *Vaginoceras grabaui* Kobayashi, 1927. 長さ数cmの小さな標本である。Kobayashi (1927) は、東南アジア・東アジア化石を扱った彼の最初の英語論文である。論文に使用された写真乾板は東京大学総合研究博物館の学術資料アーカイブに登録保管されている。

Kobayashi, T., Toriyama, R., and Hashimoto W. [eds.] 1964–1984. *Geology and palaeontology of Southeast Asia*, 25 vols., University of Tokyo Press.

(2016年10月7日受付, 2016年12月14日受理)

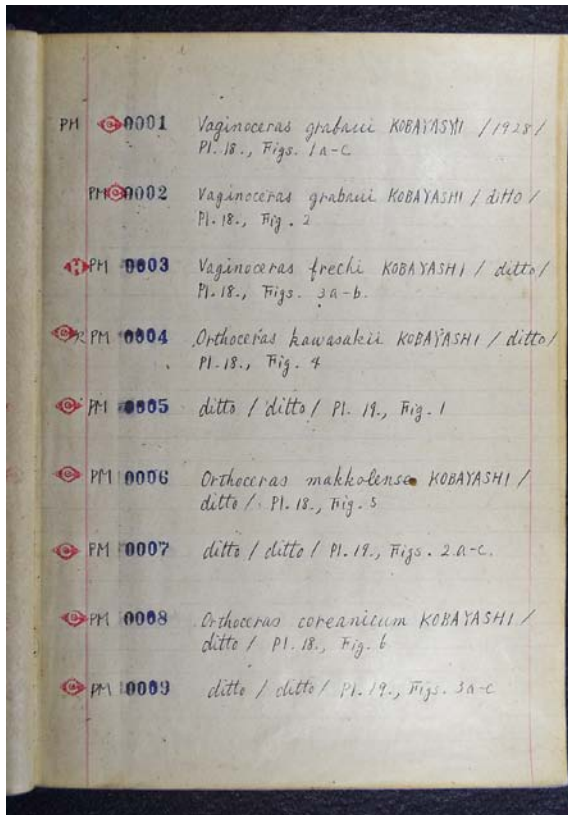


図2. *Vaginoceras grabauii* Kobayashi, 1927の登録台帳。Cはcotype (現在は syntype とみなされる)。種小名にある A. W. Grabau (1870–1946) はドイツ系アメリカ人で、第1次世界大戦への参戦に反対してアメリカを去り、中国の地質学・古生物学の発展に尽力した。北京原人の発掘にも関与している (遠藤, 1965)

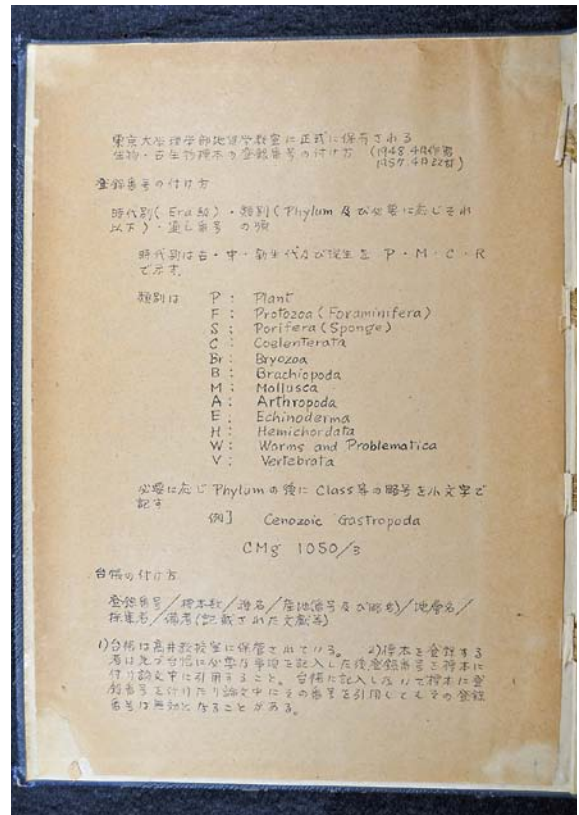


図3. 登録台帳中の説明書き。東京大学で保管される古生物標本の登録番号のつけ方は1948年4月に制定され、1957年4月に改正された。時代別、類別の略号を使ったつけ方は今日でも受け継がれている。



図4 『Geology and palaeontology of Southeast Asia』全25巻 (東京大学総合研究博物館所蔵)。1960年代に始まり、タイ、マレーシア、フィリピン、インドネシア、台湾などの多くの機関の協力をえて行われたプロジェクトの集大成である。調査旅行は21回、成果論文は300編以上、調査への参加者は190名以上を数えた。